

< 第 4 8 回 ほほえみの会 9 9 年度 総会 >

ほほえみの会も発足以来 5 年を迎え今年度の総会が開かれました。

今回は 2 0 数人の子供達も参加しました。堀越先生から病気の話聞いた後、ボランティアの方が腹話術やゲームで楽しく遊んでくれました。

会場を移して開かれた総会にはおよそ 3 0 人が参加年度の活動報告、会計報告が行われた後、役員が選出されました。島崎さん、塩川さんに代わり渡辺さん、堀内さんが世話人を引き受けて下さいました。よろしくお願ひします。

また病気を克服した 2 人の体験談は多くの人に勇気を与えてくれました。ありがとうございました。

< 9 9 年度 役員 >

代表 池田 恵一

副代表 鈴木 利治

世話人 藤田 妙子 杉山 禎 村瀬 彰子

鈴木 啓之 渡辺 俊明 堀内 雅士

会計 小嶋 隆

子ども達への病気の話

小学生以下の子ども達も多く堀越先生がわかりやすく血液の話、病気の話をしてくれました。

血液は赤血球、白血球、血小板という仲良しトリオがいること、それぞれの役割、そして血液がつくられるのが骨髄であることなどイラストを使って説明、さらに白血病というのは血液の中にバイキンマンが増えてしまい骨が痛くなったり疲れやすくなったりする、それを点滴で治すけど髪の毛が抜けたりするというお話でした。

また金色のクジラの絵本も読んでくれました。

小さな子が多いわりにみんな真剣にお話を聞いていました。

体験談

< 藤田 恵子さん 1 9 歳 専門 学校 生 >

中学 2 年の時お腹が痛くなり近くの総合病院へ。悪性リンパ腫だった。母親からはリンパ腫とだけ知らされたが治療の中で髪の毛が抜けガンかなと思った。髪の毛が抜けたのはショックで自分から髪の毛を切ってもらった。

その後骨髄移植が必要となりこども病院へ。姉と H L A が一致。長い入院生活を支えたものは、まず学校に行きたいという気持ち。部活をやりたかった。学校に行っているときには思わなかったが行けないとなるとすごく行きたくかった。あとは早く治療のつらさから解放されたいという気持ち。

常に前向きな気持ちでいようとしたが耐えられないこともあり、屋上から飛び降りようと思ったこともある。

そんなとき看護婦さんが相談にものってくれ心の支えとなった。他に中学の先生、友達、医師が支えに。歩けなかったが励ましを受けてリハビリをするようになり徐々に歩けるようになった。勉強は好きでなかったがやる気を起こして県立中央高校を受験。合格。単位制の高校で非常に良かった。

今は医療専門学校に通い作業療養士を目指している。目的を持ち絶対にやってやるという前向きな気持ちを持ってやればどんなことも乗り越えられる。

< 渡辺 藍子さん 1 8 歳 県立 中央 高校 >

中学 3 年の時胸が苦しくて救急車で病院へ。ユーイング肉腫という珍しい病気。父は隠さず話してくれた。髪の毛が抜けショック、何のためにこんな治療をしているのか、本当に良くなるのか、早く楽になりたい、死にたいと思った。

本当に苦しくて死ぬかもしれないと思ったとき、死ぬのは怖い、良くなりたかった。

治療中はまわりに八つ当たり。注射もいや、治療もしないとわがままを言った。その時の気持ちは人には理解されないだろう。

でも自分のことを考えてくれる看護婦さんがいて感謝。

自分にしかできないことを考え福祉系の仕事を目指したい。

自分は絶対に治るという自信を持つことが大事。

次回は 7 月 1 1 日 (日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田 恵一